

広尾館だより



日本赤十字看護大学
開学40周年

秋号 (Vol.47 : 2026年10月発行)

秋雨前線や台風など例年になく早い秋を感じますが、木々も徐々に秋のよそおいを始める頃ですね。いよいよ読書の秋の到来です。秋の夜長にじっくりと本の世界に浸ってみるのはいかがでしょうか。

今号では、授業や実習で忙しいみなさんにも手に取りやすい小説の紹介や、一度は訪ねてみたい日本の図書館を紹介しています。お気に入りの一冊を見つけに、ぜひ図書館へお越しください。

秋の読書案内

『笑顔で「さよなら」を 在宅ホスピス医の日記から』

著者 内藤 いづみ KKベストセラーズ 2002年
案内人 S・T(TBC会員 看護学部3年生)
請求記号 WB/310/N



突然ですが、質問です。あなたにとって、「その人らしさを支える看護」とは何ですか？

この本は、在宅ホスピス医である内藤いづみさんが実際に関わった対象とのエピソードを書き留めているものです。

内藤さんは、「家族に見守られながら穏やかな旅立ちを迎えられるよう、いのちが終わるその瞬間までその人らしく生きられるよう、お手伝いしたいと願ってきました」とある。

看護の分野においても、『その人らしく』という言葉はよく出てきて、私たち目の前のお一人おひとりがその人らしく、より良い生活を送ることができるように日々、計画や援助を考えています。

しかしながら、自身の納得のゆくまで関わったことは少ないのではないのでしょうか？わたしも、その一人で実習で受け持たせていただいた患者さんや、去年がんで亡くなった父のことを思い出すたびに考え込んでしまいます。そんな人にこそ紹介したい一冊です。看護を学んでいる途中の私たちにもその方が、その人らしく豊かで静かな最期を迎えられるために、援助や関わりを通して、多方の面からできることはあると、再認識させてくれる本です。

私はこの本を読んで、今という普通の毎日も、自分らしく精一杯生きなければならなと感じました。また、私の周りにいる大切な家族や友達、この先関わらせて頂く患者さんお一人おひとりの「その人らしさ」も同じように尊重をし、大切にしていきたい。それこそが、人間としての本当の尊厳であり、幸福なのだと、私の心に深く刻んでくれました。

最後に、月日の流れは早いもので、読書の秋と言われる時期となりましたね。ぜひ、図書館に足を運び、多くの本に触れてみてください。多様な生き方や価値観に触れ、豊かな感性を育む有意義な時間を共に過ごしましょう♪

開館カレンダー

通常開館	月～金		8:50 - 21:00	
	土		10:00 - 17:30	
*土曜日は本学在籍者限定 *特別看護研修センター研修生は土曜のみ利用可				
短縮開館			8:50 - 14:00	
休暇中開館			8:50 - 17:00	
閉 館				

10月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

広尾館・大宮館の最新情報は
図書館HPまで



日本赤十字看護大学図書館 広尾館

2026年第2回学生選書ツアー参加者募集！

開催日時：10 / 16 (金) 15時～17時

場所：丸善 丸の内本店

募集人数：先着15名

締切：10 / 8 (木)

申込方法：メールまたは、広尾館カウンターまで



図書館に置きたい本を書店で現物を見ながら選んでいただけるイベントです！
本好きな方も、これから読みたい本を見つけない方も、ぜひご参加ください！





読書の秋 角田先生のおすすめ本紹介！



『とわの庭』 小川糸 著（新潮文庫刊）

生まれつき目が見えない少女・とわが、さまざまな困難に向き合いながら、自分の力で人生を歩いていく物語です。厳しい状況の中でも、草花の香りや鳥の声、音などを感じ、人とのつながりを大切にしながら生きるとわの姿に心を動かされます。やがて外の世界へ踏み出し、友人や盲導犬との出会いを通して少しずつ人生を切り開いていきます。

視覚障害を持つ少女の成長と支援を描いた本作は、「障害とは何か」を考えるきっかけにもなります。生きることの尊さや、当たり前の日常の幸せに気づかせてくれる一冊です。



『本日は、お日柄もよく』 原田マハ 著（徳間書店）

言葉の力を武器に主人公が成長していく物語であり、その過程を通して、言葉の持つ力を改めて感じられる作品です。

ある出来事をきっかけに「言葉」の持つ力に魅了され、主人公はスピーチライターの世界へ進んでいきます。普段何気なく使っている言葉も、伝え方によって人の心を動かし、勇気を与えることがあります。言語化が苦手だといわれる現代社会だからこそ、言葉を武器に人とつながり、社会と向き合い、変えていく力を感じられる一冊です。誰かに想いを伝えることの大切さや、人とのつながりの温かさにも気づかされます。読み終わった後には、普段使っている言葉を少し大切にしたいと思うと思います。

文責：広尾館司書

建築も楽しめる日本の図書館

石川県立図書館



グレートホール（円形の本棚に囲まれた、3階まで吹き抜ける明るく開放的な閲覧空間）



ブリッジ（グレートホール3階の吹き抜け空間に架かる、館内を見渡せる特徴的な通路）

（写真提供：石川県立図書館）

全国には、地域の特色や工夫が詰まった魅力的な図書館が多くあります。数々の魅力的な図書館の中から、今回は「第40回日本図書館協会建築賞」を受賞した石川県立図書館をご紹介します。

石川県立図書館は、建築家・仙田満氏率いる環境デザイン研究所が設計し、2022年に開館しました。大きなガラス窓から自然光が差し込む館内は、「学びの森」というコンセプトを感じさせ、時間帯によって異なる雰囲気を楽しめます。

また、約110万冊の蔵書を備え、多彩なイベントや展示も開催しています。館内には石川県の伝統工芸作品や100種類・500席以上の個性豊かな椅子が配置されており、読書だけでなく、建築やデザインに興味のある方も楽しめる空間です。

石川県立図書館は、知識を得る場としてだけでなく、建築や地域文化にも触れられる図書館です。金沢を訪れた際には、ぜひその魅力を実際に体感してみてください。